

## 読解と部分作文による、考える授業

～読み書きを通して、知識学習を思考力・判断力・表現力につなげる～

渡邊 博司（元スイス公文学園高等部校長）

21 世紀の日本の教育は知識習得型の教育から課題探究型の教育への転換が求められているが、知識・技能を思考力・判断力・表現力につなげる技法が未だ課題となっている。その技法の一つとして、教科学習において「読み書き」で知識学習を思考力・判断力・表現力につなげる授業形式を考案して実践した。以下はその報告である。

### ● 読み書きを中心にする授業のねらい

- 読み書きによって、知識を確実にして深める
- 読み書きによって、知識を活用して思考力・判断力・表現力につなげる

### ● 読み書きを中心にする授業実現のための工夫

#### 工夫 1：授業のモジュール化

読み書きの活動が指導に有効なのは、読む作業、書く作業をすることで一定の思考量を確保できるからである。聞いているふりや分かったふりをしてその場をやり過ごすことはできず、作業が確実に知的活動を保証する。その結果、知識の定着を確実にすることができ、作業の知的内容やレベルを上手く設定すれば、思考を次第に深化させられる。そのための作業時間を確保できるように授業をモジュール化した。

#### 工夫 2：校内ネットワークの活用

ネットワークを十全に活用すれば、モジュール化した授業をサポートするほか、生徒は多くの情報に素早くアクセスして、情報を収集し選択することができる。さらに、それらを整理、再構築するプロセスで他の生徒と情報の交換ができれば、思考を広げ深めることができる。

### ● 授業のモジュール化

日々の知識のための授業は 3 つのモジュールからなる。

原則、1 単元 = 3 モジュール = 1 コマ (50 分)

<b>Pre-view</b> 5～10 分	<ul style="list-style-type: none"><li>・既習内容を本時につなげる</li><li>・テーマの意味を日常の生活、社会からとらえておく</li><li>・教科書、資料の記述を先習</li></ul>
<b>Work</b> 35～40 分	<ul style="list-style-type: none"><li>・Pre-view の内容を本時の中心概念につなげる</li><li>・中心概念の理解を中心に</li></ul>
<b>Review</b> 5～10 分	<ul style="list-style-type: none"><li>・本時の内容を自己確認</li><li>・新知識を深める、活用する</li></ul>

授業のモジュール化 授業例 政治経済

日本国憲法と国民主権  
単元8  
1コマ

Pre-view: 5分

四角内は校内  
ネットで配信  
されて、生徒  
はPC画面で  
見て、作業で  
きる

Pre-view 8: 日本国憲法の国民主権  
憲法前文の中から国民主権を述べている箇所をすべて下線を引いて指し示せ。

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

【導入】  
「今日は何をやるか」を理解する

- ・ 設問のパターンは毎回異なる
- ・ 憲法前文を読んで「国民主権」を述べている箇所を下線を引く ← 「主権」という言葉がどのように扱われているかを見ておく
- ・ シートは電子的に配布され、生徒はPC上で作業し、電子的に提出する
- ・ 生徒解答例を使って説明 教師が見ているシートはスライド映写機でスクリーンに映す

授業のモジュール化

授業例 政治経済

日本国憲法と国民主権  
単元8  
1コマ

Work: 35分

8. 日本国憲法の基本原理

Pre-view 8: 日本国憲法に見る国民主権

- 国民主権と天皇制を両立させる = 象徴天皇制
  - ▶ 国民主権 主権とは ( ) を治める力のこと  
これが国民にある時、主権在民=国民主権
  - ▶ 天皇の地位: 国の象徴、( ) の象徴 = 象徴天皇制
  - ▶ 天皇の国事行為: 形式的で儀礼的な行為 → 第7条で確認  
→ 内閣の助言と ( ) が必要
- 平和主義、平和への決意
  - ▶ 第9条 戦争放棄  
戦力不保持  
交戦権の否認
  - ▶ 自衛隊の形成  
警察予備隊 (‘50、GHQ指示) → 保安隊 (‘52) → 自衛隊 (‘54)  
なぜ?  
東西 ( ) の深刻化、アメリカの「防 ( ) の防壁」  
( ) 戦争の勃発 (‘50)
- 基本的人権の尊重  
→ トピック学習: 「人権裁判」の判例を見てみよう
- 憲法の最高法規性、法体系の頂点  
憲法: 国の最高法規 (98条)  
= ( )、命令、國務、詔勅は憲法に反してはならない。

Re-view 8: 国民主権と天皇制の両立

【授業本体】  
「単元の内容」を理解する

- ・ 毎授業がこの「プリント学習」のパターン
- ・ 授業の説明はこのプリント/Workシートを映写した白板の上で行う
- ・ 空欄には「重要語句」を充てない 重要語句の扱われ方が大切 (形成的な設問)
- ・ 知識の投げ渡しにならないように注意して、適語はできるだけ生徒自身に見つけさせ、言わせる (教師の力量)

授業のモジュール化 授業例 政治経済

日本国憲法と国民主権  
単元8  
1コマ

Review: 10分

Re-view 8: 国民主権と天皇制の両立

日本国憲法では、相矛盾する国民主権と天皇制が両立している。この両立はどのようにして可能になったか。  
(文末を「～により」として、全部で30～40文字)

【復習】  
「今日やったこと」を自己チェックしながら考えを深める

- ・ 設問のパターンは毎回異なる
- ・ 「Reviewのヒントは必ずWorkシートか授業の中にある」というのが基本ルール
- ・ 文末処理を指定することで、考える「外枠」を与える 「～こと」「～ため」「～から」
- ・ 字数指定は何が焦点になっているかを考えさせるため 中心概念を探す ここでは「象徴天皇制」

## 授業のモジュール化 授業例 政治経済

日本国憲法と国民主権  
単元8  
1コマ

### 生徒Aの解答例

Re-view 8：国民主権と天皇制の両立

日本国憲法では、相矛盾する国民主権と天皇制が両立している。  
この両立はどのようにして可能になったか。  
(文末を「～により」として、全部で30～40文字)

選挙による国会や内閣が政治を行い、天皇が国事的にそれらを行うことにより

Review: 10分

### 【生徒 A】

- ・対比している「国民主権」についての記述が弱い
- ・「国事的」は良いが、これを「国事行為」という語句につなげたい
- ・解答の中心概念になるべき「象徴天皇制」がない

## 授業のモジュール化 授業例 政治経済

日本国憲法と国民主権  
単元8  
1コマ

### 生徒Bの解答例

Re-view 8：国民主権と天皇制の両立

日本国憲法では、相矛盾する国民主権と天皇制が両立している。  
この両立はどのようにして可能になったか。  
(文末を「～により」として、全部で30～40文字)

天皇を象徴天皇制に変えて政治に関与させず、政治的主権を国民に持たせることにより

Review: 10分

### 【生徒 B】

- ・「象徴天皇制」はカバーされている
- ・「国民主権」にも触れている
- ・ほぼ、要求水準にある

### 【想定していた解答】

「政治は国民主権に基づいて行い、天皇は儀礼的な国事行為のみを行う象徴天皇制により」  
(39文字)

## 授業のモジュール化

### 授業例 倫理

倫理：ヤスパース  
単元15  
1コマ

Pre-view: 10分

Pre-view 15. ヤスパース：実存的な交わり

資料「ドイツ観念論、実存主義哲学」(p.151-153)を読んで、次の問いに答えなさい。

1. 「限界状況」とは何か。文中からそのまま書き抜きなさい。
2. 文中に「真実の自己が試され、世界をこえた永遠のものにふれることができる」とある。この境地について、次の質問に答えなさい。
  - 1) この境地のことをヤスパースは何というか。文中から2文字で書き抜きなさい。
  - 2) この境地に至ることができるのはどんなときか。文中からそのまま書き抜きなさい。
3. 文中に、「永遠の包括者」「永遠の超越者」という言葉があり、この二つは同じものをさしている。これらの言葉が指し示すもの何か。漢字1文字で答えなさい。

### 【導入】

「今日は何をやるか」を理解する

- ・資料は『もういちど読む山川倫理』を利用 PDFをネット上において、生徒はDLして読む
- ・読めばわかる程度の基本読解の作業をさせる
- ・哲学用語は日常語とは異なる使い方をしているので初出では理解困難 予習は大きな意味を持つ
- ・時間のかかる作業なら予習宿題として課す 生徒は授業前にネットで提出し、授業者は事前に目を通す
- ・この作業は実質的に本単元のメインテーマの学習をしている  
=反転授業の原理

## 授業のモジュール化

### 授業例 倫理

倫理：ヤスパース

単元15

1コマ

Work: 35分

15. ヤスパース： 実存的な交わり  
Pre-view 15.

キルケゴール：  
教会の絶対的権威を否定  
信仰は単独者として神に向き合うこと  
→ 主體的真理を見いだす。

ニーチェ：  
「神の死」→ 超人としての生き方  
→ 究極の主体性

ヤスパース：  
人間は限界状況で超越者（ ）に出会う  
他者との実存的な交わり→ 自己本来のあり方

1) 人間は限界状況を直視すべき  
④ 人生の壁：（ ）、苦悩、争い、（ ）  
[自分の力、科学技術で克服できない]

限界状況の中で、超越者に出会う  
包括者：実存する自己を含む全存在 → 現象を包み込み、それ自体は対象にならない。  
超越者：永遠の絶対者  
包括者 = 超越者 ≠ 神

自己の無力、有限性を知る → 挫折 → 超越者の存在に気づく

超越者の存在に気づく → うつろ現象とともに消えていく  
Yes → 永遠を確信して生きる → 永遠の価値

実存的交わり → No → 相手を見失い、閉ざされた孤独の世界へ  
Yes → 自己本来のあり方 = 実存

愛、勇気、正義の行為 → 現象としては時間とともに消え去る  
しかし、包括者の存在を支えられれば  
不滅の価値を持つ

### 【授業本体】

中心的な概念を理解する

・既習のキルケゴールとニーチェを軽く復習

・下線部が理解しておきたい中心的な概念→これを空欄にしない  
空欄は中心概念をサポートするもの

・「包括者 = 超越者 ≠ 神」の説明を十分に  
→ Review につなげる

## 授業のモジュール化

### 授業例 倫理

倫理：ヤスパース

単元15

1コマ

Review: 5分

Re-view 15. ヤスパース：実存的な交わり

- 限界状況とは何か。  
人生の壁：死、苦悩、争い、罪
- ヤスパースは、人間が自分の力には限界があることを自覚するとき、ほんとうの自分が試され、世界を超えた永遠なものの存在に気づくという。世界のすべてを根底で支えている存在を（ 超越 ）者と呼ぶ。  
世界を支えている（ 超越 ）者を神とは呼ばないのはなぜだと考えられるか。  
特定の宗教からの影響を避け、神を形象化する誘惑を抑えるため
- ヤスパースは、ほんとうの自分を確かめる [自己の実存を深める] ためには何が必要だと云うのか。  
実存的な交わり [資料では、次のようないろいろな表現がある]  
心を開いて他者と語り合い、（ 理解 ）し合うこと  
自己のすべてをかけた全（ 人格 ）的なコミュニケーション  
互いに真実の自分を触れ合わせる真剣な（ 出会い ）  
など

### 【復習】

うす文字が期待している解答

・「限界状況」はヤスパース理解のカギ  
Pre-view では書き抜きだったが、ここでは「人生の壁」の中身を問う

・2.の問いは、ヤスパース理解の核心部分 説明はされているが、ここでの解答文は自分で作り出さなくてはならない

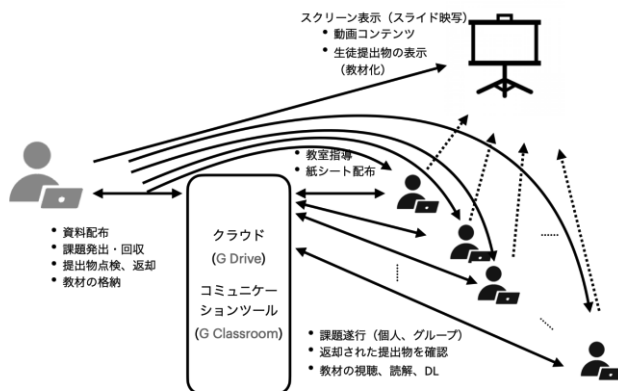
・3.は定型的な正答のない問題 自分のことばで解答を作り出す

## ● ネットワークの活用

ネットワークの活用

ファイル共有システム

効果的なコミュニケーション



### 【ネットの活用で双方向、討論】

Google ClassroomとG.Driveを利用  
(教育機関には無償提供される)

・資料配布、課題発出・回収、提出管理、採点・返却、資料保管が格段に効率化

・配布するシートはGoogle documentかGoogle Formを使用 ←教師の書き込み、生徒の共同制作、即座の集計が可能

・ファイル共有は同時編集が可能なので、文章化しながらグループ討議することが可能 →深い思考へ

ネットワークの活用  
ファイル共有システム

プロジェクト学習で深い思考

年間5回のP学習：数時限/回

共有ファイルは同時編集が可能

討論に利用できる

Project 5: Debate (記録)

争点	立論	反論	討論 (立論側が主張したこと)
ア	A1 イザナノカミとイザナミの男女二神が高天原から地上に降臨して日本列島が誕生した。日本国土が存在する以上、この二神は存在する(した)。	B4 神話に過ぎず、二神が別島を作ったというのは科学的には合理性がない。よって、二神が存在したことにはならない。	A7 相手は神話の非科学性を主張するが、科学的でないからといって不合理とは限らない。 VS B4 神話には日本文化の豊饒な本質が示されている。日本人が日本文化を愛する限り、神話にはリアリティがあり、二神は存在する。
イ	A2 山口	B5	A8 VS B5
ウ	A3	B6	A9 VS B6
エ	B1	A4	B7

記入例として示したもの

Project 5: Debate 「神は必要である」は真か偽か

争点	立論	反論	討論 (立論側が主張したこと)
「神は必要である」は真である	A1 太朗 宗教(神)は現代において、文化を豊かにするという意味において必要性がある。例えば、日本における正月の初詣。神道は日本史において地縁・血縁関係に根ざした共同体経営、維持という文化的役割をこなしてきた。これら風習や信仰に対しての人々の意識は形骸化しているが、日本社会において神道や仏教などといった宗教が行ってきた役割は依然として作用している。民族としての結びつきを維持したり、人々の内面的部分を統一したりするといったことは現代社会においても宗教の役割が依然として強い。「神」という概念の元に構築された文化が人の生活をより豊かにし、スムーズにしているという事実は明確であり、よって神は必要である。	B4 あゆみ 文化や社会が豊かになった社会には神はいらない。昔の人々が神を中心にして文化を作ったのは既成事実である。しかし、それは昔の人々が神にすがって生きていくことができなかったのである。なぜなら、現代ほどの知識や技術がなかったからだ。現代の生活は昔よりも発展している。また、昔の人々の祭りの認識は神を讃えることであった。しかし、現代では祭りはただのイベントとなってしまい、神を讃えるためのものではなくなったため神の存在意義はなくなっている。最後に、社会や文化を構成しているのは神ではなく人々の生活習慣である。よって現代の文化を豊かにさせるためには神はいらない。	A1 VS B4 文化は人間そのものである。人間が行ったこと、創造したこと全てが蓄積であり、その中の大きなポイントとして神概念の創出、宗教の存在は確実に文化の中核にあると言えるだろう。宗教行事にしても、現代において、それがいくらか形骸化していても神概念なしにはそれは成立しないのである。なぜなら、その行事はすでに神を前提に成立してしまっているのだから神概念を完全に除去してしまつたらその行事はそれでは無いのである。神概念はあまりに深く人間文化の中に食い込んでしまっているのだから信仰が薄れても、もはやその存在を消すことはできない。すなわち信仰の有無にかかわらず、文化には普遍的に神概念が影響を及ぼすのである。社会や文化を構成するのは人間である。しかし神概念を創出したのもまた人間である。すなわち神が必要か不必要かという議論の余地はなく、もつとすでに文化の中心に固定化されてしまっていると考えるのが妥当である。
イ 積罪に重	A2 はり 神は自己の罪を贖う際に必要である。何故なら罪人の最後の振り所が、神であるからだ。実際に罪人の罪が許される訳では無い。しかし、キリスト教では無い。しかし、キリスト教では無い。	B5 あさひ そもそも罪人(犯罪者)に必要なものは神ではない。ハリ君は罪人の最後の振り所が神だと書いたが、それは罪人にとって一時的な救済に過ぎない。	A2 VS B5 あなたは罪人に最も必要な事は他者からの理解であり、神の救いは必要と言いますが、一途ありません。例えば数十年前に監禁し、反省

生徒が作成したもの

← この時間を確保するためにも、日々の知識学習を効率化する必要があった。

1. 憲法判例を他生に説明
  2. 模擬裁判:裁判員の評議を聞いて、自分の判決をつくる
  3. 自分の自治体の政策を紹介
  4. 構成を持ったレポートの作成
  5. ディベート「神は必要か」
- プロジェクト5.: ディベート「神は必要か」(上記のシート)

立論は事前に文章提出する。反論→討論はその場で口頭で行う。その結果を班員は同時編集機能を使いながら文章にまとめる。その結果を、表のように文書ディベートとしてまとめる。➡ 曖昧で言い放しではない、高度な討論につなげる

● 読み書きを中心とする授業の骨子

思考、判断、表現は高次の能力であって、ストレートには接近できない。そこに至るプロセス、段階が必要である。そのプロセスを抽象的な作業ではなく、具体的な作業で支えようとするのが読み書きを中心とする授業の本旨である。

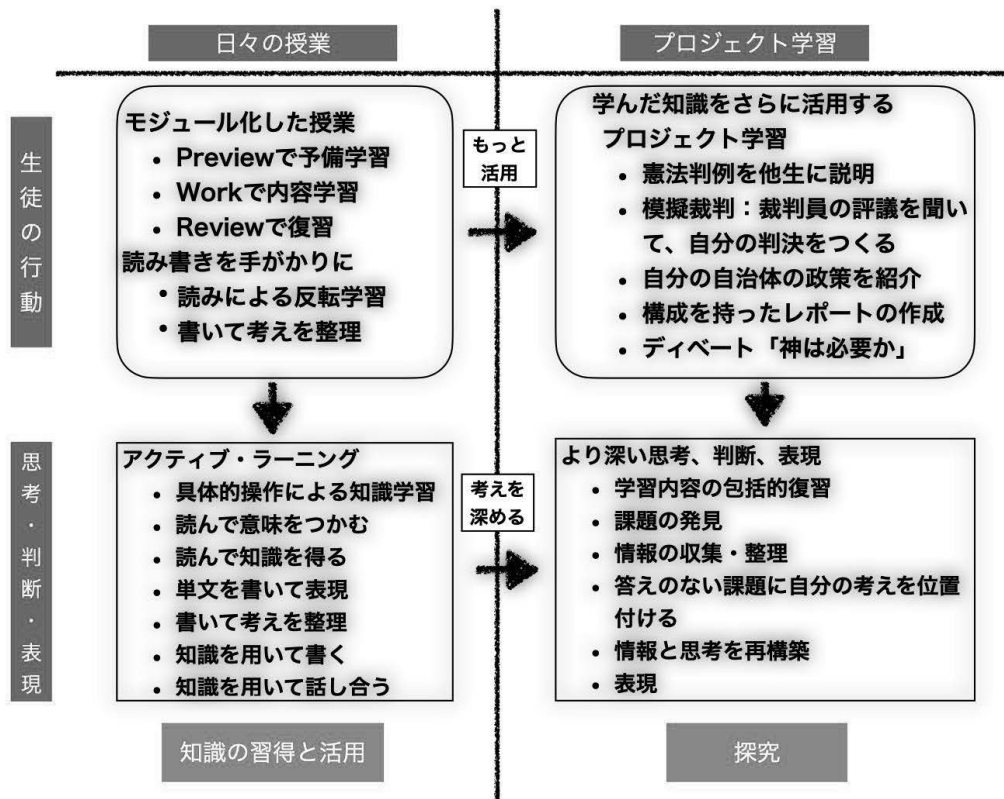
その具体的な作業として、

- ✓ 「読んで意味をつかむ」=読解
- ✓ 「的確で意味の通る単文を書く」=部分作文

に集中して繰り返すことで、思考力、判断力、表現力を鍛える。

それを基礎力にして、プロジェクト学習においてより高度な探究活動を行う。

まとめ  
読み書きで、考える授業



● 読み書きを中心とする授業のプロコン

メリット

- 生徒は作業 → 確実に学習が成立
  - 集中できる、学習効果が高い
- 繰り返し作業、レベルアップしながら作業
  - 内容の定着
  - 理解の深化
- 習得学習の効率化 → 探求学習への効果的な時間配分
- 確実な習得 → 高度な探究

デメリット

- 単なる手作業になる恐れ
  - ← 作業は思考を伴うように工夫
- 低いレベルの思考にとどまる恐れ
  - ← 思考を伴う作業を設定、特に Work には AL 要素を十分に含ませる
  - 日々の授業で、常にプロジェクト学習のテーマを意識させる

● 参考

- すべての授業をサイトで紹介： [URL はコチラ](#) →  
 内容：はじめに、日々の授業、プロジェクト学習  
 無料で閲覧できます。アプリケーションのサブスク購入画面が出たら、  
 URL の読み込みから再試行してください。



(終)